

もの言う牧師のエッセー 第254話 リオ五輪② 「最高のライバル」

60年ぶりに日本競泳陣に1種目2メダルをもたらした萩野公介選手の金、瀬戸大也選手の銅。同じ年に生まれ、小学生以来のライバル2人が世界最高レベルの追いつ追われつを繰り返し広げて達成した栄光だ。

萩野選手は小学生の時から「怪童」と呼ばれ、高校生の時に日本新記録をマーク。高校3年時にはロンドン五輪の競泳男子400m個人メドレーで銅メダルを獲得するなど、若くして日本の競泳界のエースとして活躍してきた。

いっぽう瀬戸選手は中学2年の時に萩野選手に初勝利して以来、高校総体400メートル個人メドレー2連覇をはじめ、世界選手権で同種目2連覇など、2人は互いに好不調を繰り返しながら競い合ってきた。

故障に苦しんだ萩野選手が「大也の予選をみて前半からいかないと勝てないと思った」と言えば、「予選で疲れちゃいました。まだ甘い」と明るく次を語る瀬戸選手。「大也がいなかったらここにはいないし、これからも競争は続いていく」とも話す萩野選手。お互いを鍛え合う逞しい二人の若者を見て、

「鉄は鉄によってとがれ、人はその友によってとがれる。」箴言27章17節、

と言う今から約3000年前の聖書の言葉を思い出した。言うまでもなく人を育てるのは人であり、そのためにこそ神であるキリストは人の姿を持って世に現われ、また、お互いが助け合うための装置でもある教会を造られた。神を信じて洗礼を受けたら後は何もしないで良いのではない。キリストを心に迎えた者同士が励まし合い、支え合い、共に研鑽を積んで行くのである。人生の競争はまだ続く。

2016-9-21

